



9月末生まれの生後25日ほどの雛たち。つぶらな瞳がとても可愛らしい。人懐こく足元に寄ってきました。



生後4ヶ月の土佐ジロー。5か月頃から産卵するので、もうすぐ大人。でも、まだまだ可愛らしさが残っています。鶏舎の床はびっくりするほどのフカフカ状態。



土佐ジロー 雄(手前)いかめしい目で見渡しながら、集団を見守ります。この大きになると、近寄りたがる雰囲気です。ちなみに雌25羽に対して1羽の割合です。



土佐ジローの鶏舎 屋内に隣接した広々とした屋外で、陽にあたりながら羽根を干したり餌をついばみながらゆったり過ごしています。

## 土佐ジローの里を訪ねてin南国

「もったいない探し」今回は、南国市の土佐ジロー生産者(嶋崎さん)を訪問しました。平成18年1月から飼育をスタートし、今では2500羽以上に拡大。案内していただいた3千平方メートルの養鶏場では、生後2か月から6か月までの土佐ジローが、思い思いに過ごしていました。嶋崎さんの食への深い関心から始まった土佐ジローの飼育。手入れの行き届いた鶏舎で、消費者への安心・安全を確保することはもちろんのこと、ジローがストレスを感じず過ごせるように、常にジローのことを考えながら手塩にかけて育てているそうです。菜っぱをついばませたり、時によっては煎じた薬草を飲ませたりもするそうで、ジローへの並々ならぬ愛情が感じられます。先日は、南国市の学校給食に「卵」が登場しました。飼育数も増え、卵だけでなく肉の販路も開拓中です。「毎日、食べゆうで。」と宣伝して下さる地元のお客様もいらっしゃるそうで、そんな地元の方の応援が「何より嬉しい」とおっしゃる嶋崎さん。時期によっては鶏舎の見学もできるそうで「いずれは子どもたちに体験を。」と想いが膨らんでいらっしゃいます。浜改田の海とその砂地で愛情いっぱい、のんびり育ったジロー、これを知らないことは「もったいない」、そう思える食の現場でした。



土佐ジローを飼育する嶋崎博子さん(右)、ご近所の広光さん(左)「この卵やないといかんがよ」というお得意さんです



問い合わせ先 嶋崎 博子  
南国市浜改田 2248  
電話 090-8976-4102

### 土佐ジローの卵のお勧めの食べ方 お客様の声より

生卵を飲む! ..一番簡単で栄養補給ができる!  
ゆで卵 ..持ち運びが簡単で、職場でおやつがわりに卵かけご飯アレンジ  
納豆(しそ味・のり味)にジロー卵を入れる 納豆が苦手な人も食べられる(かも) 納豆にカエリジャコとジロー卵。  
カルボナーラ(パスタ) ..濃厚さがたまらん!  
おでん ..一口サイズで何個でも食べられそう!  
オムレツ ..卵の色。味の濃い旨さ!  
ホットケーキ お好み焼き ..どちらも生地にして1時間ねかすことがコツ!  
プリン ..作った次の日もったりして美味しい!  
酢卵 ..スペースの都合省略しますが、お勧めだそうですよ!

地産地消ニュースでは、サポーター活動をご紹介します。イベントなどのチラシをお送りいただけますと、毎月お送りしている発送便に同封して、他のサポーターの皆さまにお知らせできます。地産地消課までお問い合わせください。